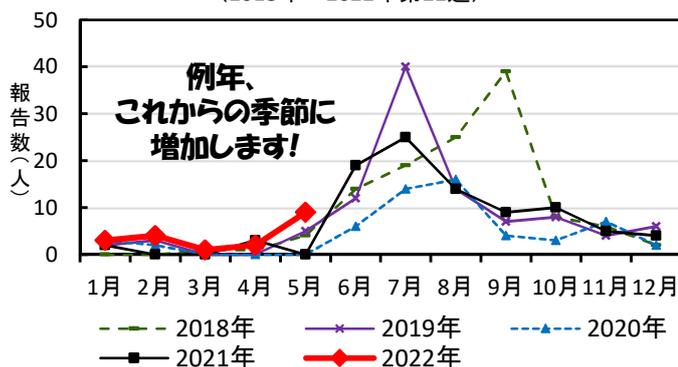


腸管出血性大腸菌感染症 に 注意しましょう

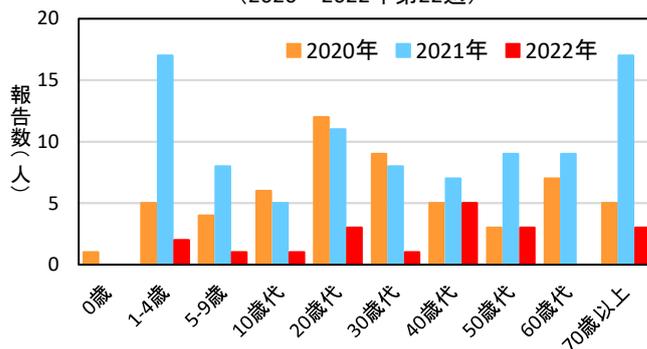
◆ 流行状況

2022年は第22週までに19件の報告がありました。(昨年同時期: 6件)
気温が上昇するこれからの時期は、特に注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別報告数
(2018年~2022年第22週)



腸管出血性大腸菌感染症 年齢群別報告数
(2020~2022年第22週)



◆ どんな病気?

O157などの腸管出血性大腸菌が、口から体の中に入ることでおこる胃腸の病気です。
少ない菌量でも感染し発症するため、家族や集団生活の中で感染が拡大することがあります。

【症状】

- ・潜伏期間は多くは3~5日で、主症状は下痢・腹痛・血便・発熱などで、無症状(保菌)の場合もある。
- ・抵抗力の弱い高齢者や乳幼児が感染すると、重症化することがある。

【感染経路】

- ・汚染された食品等を介して、口から体の中に入り感染する。
- ・患者の便を介して家族などへ感染が拡大することもある。



◆ 予防するには?

次のことに気をつけましょう。

- 肉の生食は避け、中心が白くなるまで十分に加熱調理して食べる。
- 生肉を扱う箸と食事用の箸を使い分ける。
- 生野菜はよく洗って食べる。
- 調理器具の洗浄と消毒をしっかりと行う。
- 石けんと流水による手洗いを励行する。



◆ 感染を広げないために

- 下痢や腹痛などの症状がある人は、速やかに医療機関を受診する。
- 入浴は家族と一緒にせず、最後に入る。浴槽に入る時には石けんで体を洗ってから入る。入浴後は水を抜いて浴槽を洗う。
- 症状のある人の下着は、塩素系漂白剤でつけ置き消毒し、家族のものとは分けて洗濯する。洗濯後は、洗濯機のゴミ取りネットを忘れずに掃除する。
- トイレのあとは必ず手を洗う。

★ 腸管出血性大腸菌感染症についての詳しい情報: <http://www.pref.gunma.jp/02/p07110049.html>



* この情報に関するお問い合わせ先: 群馬県感染制御センター(群馬県衛生環境研究所)

TEL: 027-232-4881 E-mail: kansenseigyo-c@pref.gunma.lg.jp